

『おしえて 漢字くん！』解説

『おしえて 漢字くん！』は、小学校1年で学習する漢字80字すべてを取り上げています。そのうち、歌詞だけでは漢字の成り立ちを伝えにくい字33字を選び、解説文を作りました。次の表は、この33字の解説が載っているページをまとめたものです。知りたい字の解説を、この表を見ながら探してください。

番号	漢字	見出し 音訓	解説 ページ												
1	青	あお	2	21	氣	キ	7	41	竹	たけ		61	日	ひ	
2	赤	あか	2	22	九	キュウ	7	42	正	ただしい	11	62	火	ひ	
3	足	あし		23	金	キン		43	立	たつ		63	左	ひだり	
4	雨	あめ		24	草	くさ	8	44	玉	たま		64	人	ひと	
5	石	いし		25	口	くち		45	小	ちいさい		65	百	ヒャク	15
6	一	イチ		26	車	くるま		46	力	ちから	12	66	文	ブン	15
7	糸	いと	3	27	子	こ		47	月	つき	12	67	本	ホン	16
8	犬	いぬ		28	五	ゴ	8	48	土	つち		68	町	まち	16
9	上	うえ	3	29	校	コウ		49	手	て		69	右	みぎ	
10	生	うまれる		30	三	サン		50	出	でる		70	水	みず	17
11	円	エン	4	31	四	シ	9	51	天	テン		71	耳	みみ	
12	王	オウ	5	32	字	ジ	9	52	名	な	13	72	見	みる	
13	大	おおきい		33	下	した	10	53	中	なか		73	虫	むし	17
14	音	おと		34	七	シチ		54	二	ニ		74	村	むら	17
15	男	おとこ	5	35	十	ジュウ		55	年	ねん	13	75	目	め	
16	女	おんな		36	白	しろ	10	56	入	はいる		76	森	もり	
17	貝	かい		37	千	セン		57	八	ハチ		77	休	やすむ	
18	学	ガク	6	38	先	セン		58	花	はな	14	78	山	やま	18
19	川	かわ	6	39	空	そら		59	早	はやい	14	79	夕	ゆう	
20	木	き		40	田	た	11	60	林	はやし		80	六	ロク	

I. 青

○ 「青」字のなり立ち

・「青」は、「生」と「丹」からできています。

・「青」の上の部分は、もともと「生」の形でした。「生」は、あお くさ は ようす あらわ青い草が生える様子を表し、また、「青」を「せい」と読むことも表しています。

・「青」の下の部分は、もともと「丹」の形でした。「丹」は、ほ あな と いろ つ つち掘った穴から採った色付きの土のことです。この土を、絵の具の材料にしていました。

(参考) 日本の「あお」色とは

・昔の日本では、色を表す言葉が、「しろ」「くろ」「あか」「あお」などに限られていました。「あお」という言葉で、みどりいろ ふか あいいいろ はばひろ あらわ ことば緑色から深い藍色までを幅広く表しました。言葉の上で、「あお」と「みどり」は、区別しないで使われていました。

2. 赤

○ 「赤」字のなり立ち

・「赤」は、「大」と「火」からできています。

・「赤」の上の部分の「土」は、もともと「大」の形でした。「大」は、ひと まえ む た すがた人が前を向いて立っている姿を表しています。

・「赤」の下の部分は、もともと「火」の形でした。

7. 糸

○ 「糸」字の字体の移り変わり

- ・「糸」のもともとの字は、「絲」でした。
- ・「絲」は、 糸の束を2つ並べた形で、「いと」を表しました。
- ・今の字「糸」は、 2つあるものを1つにして、糸の束1つで、「いと」を表します。

9. 上

○ 「上」字の成り立ち

- ・「上」のもともとの字は、こんな形でした。 
- ・長い横線の上に短い線があり、これで、「うえ」の意味を表したようです。
- ・それから、縦線も付いて、今の「上」の形になりました。

II. 円

1. 「円」字の字体の移り変わり

- ・「円」のもともとの字は、「〇」の下に「鼎」を加えた形でした。これは、口が丸い鼎のことです。
- ・それから、形が簡単になって、「員」の形になりました。「員」が別の意味でも使われるようになると、「員」の外側を「口」で囲んだ「圓」の形を作り、「まるい」という意味を表すようになりました。
- ・今の字「円」は、「圓」を簡単にしたものです。

2. 「鼎」とは

- ・「鼎」は、土や金属でできた脚のある容器です。今の鍋のように、食べ物を煮るときに使われました。
- ・昔の中国で、盛んに使われ、また、大切にされました。口が丸いものと、口が四角いものがありました。



〈口が丸い鼎の例〉

毛公鼎（台湾・国立故宮博物院所蔵）



〈口が四角い鼎の例〉

厚趨方鼎（中国・上海博物館所蔵）

12. 王

○ 「鉢」とは

・「鉢」は、大きなおのです。立っている木を切る時などに使われます。

・昔の中国では、武器として使われたようで、王様が偉いことの印として、王様の席の前に、刃を下に向けて置いていました。



〈鉢の例〉

透彫龍紋鉢（中国・上海博物館所蔵）

15. 男

1. 「男」字に含まれる「田」の意味の移り変わり

・11ページの、「田」の説明を見てください。

2. 「男」字に含まれる「力」とは

・12ページの、「力」の説明を見てください。

18. 学

○ 「学」字の字体の移り変わり

- ・「学」のもともとの字は、「學」でした。
- ・「學」の左上と右上の部分は、どちらも手の形であり、両手を使って教えている様子を表しています。
- ・「學」の真ん中の部分の「爻」は、文字を表していたようです。
- ・「學」の下の部分は、もともと「屮」の形で、建物を表しています。
- ・昔は、こういう形の組み合わせでできた「學」で、学校を表しました。
- ・それから、「學」の下に「子」が付いて、「學」になりました。「子」は、子供を表しています。
- ・今まで「学」は、「學」の上の部分の「學」を簡単にしています。

19. 川

○ 「川」と「水」の違い

- ・「川」のもともとの字は、こんな形でした。 
- ・「水」のもともとの字は、こんな形でした。 
- ・「川」の字は、3本の水の流れを描き、「水」の字は、1本の水の流れと、右と左にある小さな水の流れを描いています。どちらも、川の水が流れている様子を表しました。
- ・今では、「川」は「かわ」の意味で、「水」は「みず」の意味で使われます。

21. 気

○ 「氣」字の字体の移り変わり

- ・「氣」のもともとの字は、「氣」でした。
- ・「氣」の外側の部分の「氣」は、湯気を表すようであり、また、「氣」を「き」と読むことも表しています。
- ・「氣」の内側の部分の「米」は、米や麦などの作物のことです。
- ・今の中「氣」は、「氣」の内側の部分の「米」を簡単にしています。

22. 九

○ 「九」字の成り立ち

- ・「九」は、もともと、何かが折れ曲がった様子を表していました。
- ・「九」が表していた折れ曲がっている物について、いろいろな考え方があります。「腕をひじで曲げている形」「竜が体を曲げている姿」などです。どの考え方方が正しいか分かりません。
- ・今では、「九」は、もともとの意味ではなく、数字の「きゅう(9)」「このつ」の意味で使われます。

24. 草

○ 「草」字のなり立ち

- ・「草」は、「艹」と「早」からできています。
- ・「草」の上の部分の「艹」は、草を並べた形です。植物に関係することを表しています。
- ・「草」の下の部分の「早」は、太陽の下にある植物を表しています。「そう」と読みます。
- ・「早」について、詳しいことは、14ページの、「早」の説明を見てください。

28. 五

○ 「五」字のなり立ち

- ・「五」のもとの字は、こんな形でした。
- ・この形で、たるの蓋や踏み台を表しました。真ん中がくびれた形の物をいろいろ表したようです。
- ・それから、形が少し変わって、今の「五」の形になりました。
- ・今では、「五」は、もとの意味ではなく、数字の「ご(5)」「いつつ」の意味で使われます。

31. 四

○ 「よっつ」を表す字の移り変わり

- ・「よっつ」は、古くは、「一」「二」「三」と同じように、4本の横線で表しました。4本線で表した字は、「三」と見分けが付きにくかったと考えられます。
- ・それから、「よっつ」を「四」と書くようになりました。口を開けて息をする意味の字です。「四」も、「し」と読みます。読み方が同じ、別の字を使うようになりました。

32. 字

○ 「字」字の意味の移り変わり

- ・「字」は、「宀」と「子」からできています。
- ・「字」の上の部分の「宀」は、建物を表します。
- ・「字」の下の部分の「子」は、子供を表します。
- ・「字」は、もともと、家の中で子供が生まれることや、子供が増えることを表しました。
- ・それから、「字」は、文字のことを表すようになりました。これは、文字を組み合わせることで、まるで子供が増えるように、新しい文字ができたからだと言われています。

33. 下

○ 「下」字の成り立ち

・「下」のもともとの字は、こんな形でした。 

・長い横線の下に短い線があり、これで、「した」の意味を表したようです。

・それから、縦線も付いて、今の「下」の形になりました。

36. 白

○ 「白」字の成り立ち

・「白」は、もともと、白い物を表していたようです。

・「白」が表していた白い物について、いろいろな考え方があります。「頭の骨」「ドングリの実の中身」

「月の光」などです。どの考え方方が正しいか分かりません。

・今では、「白」は、ただ「しろい」ということを表します。

40. 田

○ 「田」字の意味の移り変わり

- ・「田」は、もともと、作物を育てるために、四角く区切られた場所を意味していました。
- ・昔の中国で、「田」の字ができた時には、麦や豆を育てる場所だったかもしれません。
- ・それから、いろいろな場所で、土地に水を引き入れて、米を作ることが盛んになりました。
- ・今の日本では、「田」は、米を作る場所を表します。他の作物を育てる場所は、「畑」と言います。

42. 正

○ 「正」字の意味の移り変わり

- ・「正」は、「一」と「止」からできています。
- ・「正」の上の部分の「一」は、もともと「□」の形で、まちを囲む城の壁を表しました。
- ・「正」の下の部分の「止」は、足の形です。
- ・この組み合わせで、まちを攻める意味を持ち、軍隊が攻撃することを表しました。
- ・それから、「正」は、「ただしい」という意味でも使われるようになりました。昔の人たちは、戦争でまちを攻めることは正しいと考えていたからです。

46. 力

1. 「力」字のなり立ち

・「力」のもともとの字は、こんな形でした。 

・この形で、「鋤」という道具を表していたようです。

・それから、形が少し変わって、今の「力」の形になりました。

・今では、「力」は、もともとの意味ではなく、「ちから」の意味で使われます。

2. 「鋤」とは

・「鋤」は、畑の土を掘り起こす時などに使う道具です。

・まっすぐな長い棒の先に、刃が付いています。人の力で刃を土に押し込んで、土を掘ることができます。

・昔の「鋤」には、フォークのような形の刃が付いたものと、横幅の広い刃が付いたものがありました。

47. 月

○ 「月」の満ち欠けについて

・「月」は、一月かけて地球の周りを回っています。

・「月」は丸いですが、見え方がいろいろ変わります。これは、地球から見て、太陽に照らされて光っている所と、影になっている所があるからです。

52. 名

○ 「名」字の成り立ち

・「名」は、「夕」と「口」からできています。

・「名」の上の部分の「夕」は、月の形を表します。

・「名」は、暗い所で自分の名前を言うことだろうという考え方があります。

・「名」の下の部分の「口」を、大切な行事に使う容器の形とみて、「名」は、夜に行う行事だという

考え方もあります。

55. 年

○ 「年」字の成り立ち

・「年」のもともとの字は、こんな形でした。



・「」の上の部分は、「禾」の形で、実った食べ物を表しています。



・「」の下の部分は、「人」の形です。

・これらを組み合わせて、実った食べ物を持ち上げている人の姿を表しています。

・食べ物は、年に回実る事が多いため、この字で、「とし」を表すようになりました。

・それから、形が変わって、今の「年」の形になりました。

58. 花

○ 「はな」を表す字の移り変わり

- ・植物の「はな」は、古くは「華」と書きました。「か」と読みます。「華」は、花がたくさん咲いている様子を表します。
- ・それから、「はな」を「花」と書くようになりました。「花」も、「か」と読みます。読み方が同じ、別の字を使うようになりました。
- ・「華」の字は、今では、植物の「はな」よりも、「うつくしさ」や「はなやかさ」を表すことが多いです。

59. 早

○ 「早」字の成り立ち

- ・「早」は、「日」と「十」からできています。
- ・「早」の上の部分の「日」は、太陽の形です。時間に関係することを表しています。
- ・「早」の下の部分は、もともと「そう」という読み方の植物を表していました。それから、その形が簡単になり、「十」の形になったようです。
- ・「早」は、もともと、朝早い時間を意味していましたが、今では、朝でなくても「はやい」ことを表します。
- ・「早」について、全体の形から、「スプーン」や「木の実」を表すという考え方もあります。

65. 百

○ 「百」字の成り立ち

・「百」は、「一」と「白」からできています。

・「百」の下の部分の「白」は、もともと、白い物を表していました。数の「ひゃく（100）」を表す

言葉と、「白」の昔の読み方が似ていたので、「白」の字を使って「ひゃく」を表すようになったようです。

・「百」も「白」も、「ひゃく」の意味で使われてきましたが、今では、「百」の字が、「ひゃく」を表します。

・「白」について、詳しいことは、10ページの、「白」の説明を見てください。

66. 文

○ 「文」字の成り立ち

・「文」は、もともと、人を正面から見た形の、胸に模様を描いた様子を表していました。模様を描くことが、おまじないだったようです。

・今では、「文」は、主に「文字」「文章」の意味で使われます。

67. 本

○ 「本」字の意味の広がり

- ・「本」は、木の根本に印を付けた形で、木の根本を表します。
- ・木の根本であることから、「一番もとになる正しい物」という意味にもなりました。
- ・「一番もとになる正しい物」は、「手本」にもなります。そういうことから、文字が書かれた物のことも「本」と言うようになったようです。

68. 町

1. 「町」字に含まれる「田」の意味の移り変わり

- ・11ページの、「田」の説明を見てください。

2. 「あぜ道」とは

- ・田畠で作物を育てる所は、土地が分かれています。田畠と田畠の境目に、土を盛り上げた細い部分があり、「あぜ」と言います。
- ・「あぜ」のうち、人が通れるように広くしているものを、「あぜ道」と言います。「あぜ道」で、人と人が話をすることもあります。

(参考) 日本の市、町、村とは

- ・日本では地方の団体として、市、町、村が置かれています。住む人の数は、だいたい市が多く、次に町、村の順です。

70. 水

○ 「川」と「水」の違い

- ・6ページの、「川」の説明を見てください。

73. 虫

○ 「虫」字の字体の移り変わり

- ・「虫」のもともとの字は、「蟲」でした。
- ・「蟲」は、蛇などを3つ並べた形で、「むし」を表しました。
- ・今の字「虫」は、3つあるものを1つにして、「むし」を表します。

74. 村

○ 「むら」を表す字の移り変わり

- ・「むら」は、古くは「邨」と書きました。「そん」と読みます。「邨」の左の部分の「屯」も、右の部分の「阝」も、人が集まることを表す形です。
- ・それから、「むら」を「村」と書くようになりました。「村」も、「そん」と読みます。読み方が同じ、別の字を使うようになりました。

(参考) 日本の市、町、村とは

- ・16ページの、「町」の説明の(参考)を見てください。

78. 山

○ 「山」字のなり立ち

・「山」には、2つのでき方があります。

・火山の噴火によってできた「山」は、高い所が1つだけになります。日本の富士山は、こういう形です。

・長い時間をかけて、地面にしわが寄ってできた「山」では、高い所と低い所が、くりかえし生まれます。昔の中国には、こういう形の「山」が多くありました。この形から、「山」の字が作られました。

* * * * *

「おしえて 漢字くん！」解説

公開日 2023年11月22日

作成 「おしえて 漢字くん！」解説プロジェクト

リーダー 吉田敏治

メンバー 清田淑子、伊藤有平

事務局 久保裕之

制作 立命館大学白川静記念東洋文化研究所

著作 学校法人立命館

* * * * *